

今を未来に

3年A組で全体研修会(職員)がありました。

今回は、3年A組の子どもたちの授業を参観して「学び合いの授業づくり」を進めるために、どの場面で学び合いができていたか、逆にできていなかった場面はなかったか、学び合いを創るための手立てとして自分ならどういう所に手立てを打つか、どんな手立てが打てたかを話し合いました。今回の研修にも指導主事お二人をお呼びして指導をいただくことができました。

この日の理科の課題は、「電気で明かりをつけよう」の単元の2校時目で、豆電球に明かりがつくのはどんなつなぎ方の時かを考える内容でした。道具は豆電球1個・乾電池1個・導線付きソケット1個でした。子どもの中には乾電池を使ったおもちゃで遊んだりした経験がある子や実際に豆電球をつけたことが経験としてある子もいて、予想をする段階で「これはつくけど、このつなぎ方はつかない。」と考えながら、予想できる子も多くいました。

でも、予想をして実際に確かめてみると、つくと思っていたつなぎ方がつかなかったり、つかないと思ってやったらついたという子もいました。よく見てみると、電池には絶縁部分があって、そこに導線をつなげててもつかないと予想をしていたのですが、微妙にプラス極に導線が触れていてついたようです。全体でつくつなぎ方・つかないつなぎ方を確かめる時に、みんなが考えるよい課題になっていました。



理科の授業は事実を元にして考えることができる教科の特性があります。便利な世の中になると、ブラックボックスになっている部分が多くなります。それを「そんなもの。」と思うのか、「なぜそんなことになるの?」と思うかで、考える力=思考力・探究心に大きな違いが出てくるように思います。そんな思考力を付けることは、友だちのことを考える時にも生きてきます。そして、世の中の矛盾に対しても「そうなんだ。そんなものなんだ。」ではなく、「何とかしたい。」と考え、行動し、解決していく子を育てることにつながると考えています。

この日の3年A組の子どもたちは、多くの先生方に見られることを、とても意識していました。チャイムが鳴る時にはほとんどの子が着席し、小山先生の指示を聞き逃さないという思いで、顔を



同じ方向に向けていました。「やればできる!」と、思ってしまいました。今日のようにみんなが一つの課題を解決しようと協力し合う授業が多くなれば、大きく成長できる子どもたちだと思いました。友だちの意見に対して、「それはつかないのと違うかなあ?」と質問し、そこからみんなで確かめ合う場面もありました。質問の仕方とても心地よかったし、みんなで勉強を進めている感じが伝わってきました。たくさんの先生がみなさんをほめて下さっていて、校長先生も嬉しかったです。